

日本フィルハーモニー交響楽団

作曲家 坂本龍一

その音楽とルーツを今改めて振り返る

第255回芸劇シリーズ *Geigeki Series*

2024年6月2日 日

14:00開演

東京芸術劇場 コンサートホール

Tokyo Metropolitan Theatre

2:00p.m., Sunday, 2nd June, 2024 at Tokyo Metropolitan Theatre

ドビュッシー：
《夜想曲》*3坂本龍一：
箏とオーケストラのための協奏曲*1坂本龍一：
The Last Emperor (映画「ラストエンペラー」より)武満徹：
組曲《波の盆》より「フィナーレ」坂本龍一：
地中海のテーマ (1992年バルセロナ五輪開会式音楽)*2,3<指揮>
カーチュン・ウオン [首席指揮者]
Conductor: Kahchun WONG, Chief Conductor<箏>
遠藤千晶*1
Koto: ENDO Chiaki<ピアノ>
中野翔太*2
Piano: NAKANO Shota<合唱>
東京音楽大学*3
Chorus: Tokyo College of Music

料金 (税込)

好評発売中

S席 7,000円 / A席 5,500円 / B席 5,000円 / C席 4,000円 / Gs席 (65歳以上) 4,000円 / Ys席 (25歳以下) 1,500円

*Ys席、Gs席は日本フィルでのみ取り扱います。S席以外から選べます。*未就学児の入場はご遠慮ください。*出演者、曲目等は変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。*障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターまでお問い合わせください。*車いすでご来場予定のお客様は、当日のスムーズなご案内のため、チケットご購入後ご購入席番を日本フィル・サービスセンターまでご連絡ください。

主催：公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援：シンガポール共和国大使館

託児サービス 株式会社ミラクス ミラクスシッター TEL: 0120-415-306 (土曜・日曜・祝祭日を除く平日、午前9時から午後5時まで) ご予約の際「東京芸術劇場の託児予約の件で」とお問い合わせください。



© Ayane Sato



© TSUNEO MORONAGA



© Taira Tairadate

お申込み
お問合せ

日本フィル・サービスセンター TEL (03) 5378-5911 [平日10時~17時]

eチケット♪ [席を選んでお申込みできます] <https://eticket.japanphil.or.jp>チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/japanphil/> Pコード: 263-951 e+【イープラス】 <https://eplus.jp/>ローソンチケット <https://l-tike.com> Lコード: 32415東京芸術劇場ボックスオフィス (0570) 010-296 [10時~19時] URL (PC) <https://www.geigeki.jp/t/>

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA
創立指揮者 渡邊 暁雄

坂本龍一が世を去って、1年。日本フィルはこの音楽家への敬意を、コンサートというかたちであらわします。あまりふれる機会のないオーケストラ作品をステージで演奏する。音楽家じしんが敬愛し、意識していた先達の作品もあわせて提示します。

中心に据えられるのは、《ラストエンペラー》とともに、バルセロナ・オリンピック開幕のための《地中海のテーマ》と《箏とオーケストラのための協奏曲》、2つのオリジナルのオーケストラ作品。《協奏曲》は2010年に関西圏と関東圏で演奏されていたり再演されていません。これらはまた、映像や物語に付随することなく、描写的なタイトルもなく、楽器の音そのものによって構築される、音・音楽と聴き手がじかに対面できる作品です。

ドビュッシーの生まれ変わりではないだろうか。そう坂本龍一青年はおもったそうです。《雲》のゆったりしたさま、時間の感覚は、音楽家のなかに生きつづけてきました。武満徹へは、若き日のアンビヴァレンツなおもいをこえ、いくつかの作品のテクスチャへの愛着を隠しませんでした。武満徹の映像とともにある音楽を、ドビュッシーとのつながりも考慮し、坂本龍一作品のあいだに配置する。プログラミングはそうになっています。

ドビュッシーや武満徹の音楽を対照しながら、「オーケストラ」という媒体をとおしてあらわれてくる坂本龍一の顔貌にふれる——かならずや貴重な機会となるでしょう。

小沼純一(監修)

カーチュン・ウォン [日本フィル首席指揮者] Kahchun WONG, Chief Conductor

2023年9月より日本フィルハーモニー交響楽団首席指揮者およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者に就任、24年9月より英国マンチェスターに本拠を置くハレ管弦楽団首席指揮者兼アーティスティック・アドバイザーへの就任が決定しているシンガポール出身のカーチュン・ウォンは2016年グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝、その名を世界に知られることとなる。2022年8月までニュルンベルク交響楽団首席指揮者を務め、これまでに、ニューヨーク・フィルハーモニック、ロサンゼルス・フィルハーモニック、クリエヴァンド管弦楽団、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団を含む国内外の主要楽団との共演も果たす。

2019年、33歳という若さでシンガポールとドイツの文化交流並びにドイツ音楽文化の海外普及における献身的な取り組みと顕著な功績により、シンガポール出身の芸術家として初めてドイツ連邦大統領より功労勲章を与えられた。2021年12月の日本フィルハーモニー交響楽団定期公演で演奏されたマーラー交響曲第5番のライブ録音CDが日本コロムビアよりリリースされている。



©Ayane Sato

遠藤千晶 [箏] ENDO Chiaki, Koto

東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院修了。3歳で初舞台、13歳で宮城会主催全国箏曲コンクール演奏部門児童部第一位入賞。大学卒業時には、卒業生代表として皇居内・桃華楽堂にて御前演奏。第8回長谷検校記念全国邦楽コンクールで最優秀賞(全部門第一位)および文部科学大臣奨励賞受賞。ベトナムで開催された ASEMに先立つ参加各国文化祭にて、日本代表としてコンサートを行う。「遠藤千晶箏リサイタル〜挑み〜」の演奏で第62回平成19年度文化庁芸術祭新人賞受賞。第13回日本伝統文化振興財団賞受賞。第38回松尾芸能賞新人賞受賞。現在までに、ソリストとして日本フィルハーモニー交響楽団をはじめ、シアトル交響楽団など多くのオーケストラと協演を重ねる。さらに、箏協奏曲の作曲を委嘱し、自身のリサイタルで演奏するなど意欲的な活動を続ける。また、小・中学校音楽教科書(教育芸術社)にも掲載され、学校公演や門人の指導など、教育活動、後進の育成にも積極的に取り組んでいる。CD「遠藤千晶箏協奏曲の軌跡」ほか CD・DVD を多数リリース。現在、生田流箏曲宮城社大師範。宮城合奏団団員。日本三曲協会会員。生田流協会会員。東京藝術大学音楽学部非常勤講師。



©TSUNEO MORONAGA

東京音楽大学 [合唱] Tokyo College of Music, Chorus

東京音楽大学合唱団は「合唱」授業科目の履修者から選抜された学部生と声楽専攻の大学院生を中心に構成する混声合唱団で、国内外の著名オーケストラと数多くの共演を果たしている。

日本フィルハーモニー交響楽団との共演は、「第九」を始めとして1979年以来40年以上の歴史を持つ。2020年以降の共演においては感染症対策に伴い合唱団の人数が大幅に制限される中、同楽団と今までにない「第九」の歓喜を表現することができた。

他に2018年11月にサンクトペテルブルクフィルハーモニー交響楽団「イワン雷帝」、2019年11月にNHK音楽祭「シンフォニック・ゲーマーズ4」、2021年6月に「めぐろで第九2020+1」、2022年8月に「フェスタサマーミュージック KAWASAKI 2022」に出演。2023年には日本フィルハーモニー交響楽団「クレルヴォ」「第九」「道化師」「カルミナ・ブラーナ」に出演。

合唱指導は2022年度より、志村文彦、藤牧正充、浅井隆仁の各氏に加え、フレンドリー・アドバイザーとして広上淳一氏を迎えている。



©飯田耕治

日本フィルハーモニー交響楽団 Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月創立。質の高い音楽を届ける「オーケストラ・コンサート」、音楽との出会いを広げる「エデュケーション・プログラム」、音楽の力で様々なコミュニティに貢献する「リージョナル・アクティビティ(地域活動)」という三つの柱に加え、2011年の東日本大震災以来「被災地に音楽を」届ける活動を継続している。これらの活動は高い評価を受け、第16回後藤新平賞を受賞。

2023年9月より首席指揮者にカーチュン・ウォンを迎え、桂冠名誉指揮者小林研一郎、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)広上淳一という指揮者陣を中心に年間150回を超えるオーケストラ公演を行う。

2026年の70周年に向け、芸術性と社会性を両輪とし、「温かさ」「人に寄り添う」土壌を大切にしながら、あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、音楽の持つ様々な力を社会に活かしていくことを目指している。1994年に杉並区と友好提携を結び、本拠地とする。毎週水曜日22時54分～23時、BS朝日「Welcomeクラシック」出演中。

オフィシャルウェブサイト <https://japanphil.or.jp> X(旧Twitter) @Japanphil

